

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403590		
法人名	有限会社 TOMO		
事業所名	グループホーム トモ・ハウス		
所在地	福島県いわき市中之作字勝見ヶ浦49-18 (電話)0246-56-5220		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.3.12	評価確定日	H20.4.28

【情報提供票より】(20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	4 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,260 円		

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.5 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かしま病院、中山病院、鈴木歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は鉄筋造り4階建ての2階部分を使用している。居間には畳と掘りごたつがあり、利用者が集まれる環境になっていて利用者と職員が穏やかに1日を過ごしている。窓からは海が近くに見え公園もあり、利用者と職員の散歩コースになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	要改善項目について、改善シートを作成し管理者と職員で話し合い「運営推進会議を2ヶ月に1回開催」「入居者の状況変化を定期的に家族へ報告」「家族の意見等を運営に反映」などの見直しを行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全て職員に伝え、自己評価項目を分担して行った。前回の要改善項目については、改善シートを作成し職員で話し合い、利用者のよりよい生活支援のための見直しを行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は、区長、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。ホームの活動内容や、事業所内での出来事を報告し、意見や助言を頂き運営に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に声掛けし、意見を引き出せるように努めている。意見箱を設置して家族からの意見を求めている。意見や苦情をミーティングで話し合い、ケアの改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(お祭り等)や、清掃活動に利用者と職員と一緒に参加し、地域の方々と交流している。幼稚園児の訪問もある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは、一人一人の尊厳を守り、地域で安心して暮らせるように支援いたします」という理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示している。ミーティングや勉強会で理念に基づいた実践の話し合いをしている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや清掃活動に利用者と職員が一緒に参加し、地域の方々と交流している。幼稚園児の訪問もある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全て職員に伝え、自己評価項目を分担して行った。前回の要改善項目については、改善シートを作成し職員で話し合い、利用者のよりよい生活支援のための見直しを行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、区長、家族、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。ホームの活動内容や事業所内の出来事を報告し、意見や助言を頂き運営に活かしている。</p>		
6	9				
4.理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>心身に変化があったときには、直接電話で話すことにしている。利用者の生活状況は、家族の面会時に話している。職員の異動については、新採用職員のための紹介になっている。</p>		<p>今後は職員の異動に関してもホーム便り等で家族へ報告してほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時に声掛けして、意見や要望を聞くようにしている。意見箱も設置してある。出された意見、要望をミーティングで話し合いケアの改善に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>平成19年度の職員の離職、異動が6名あり、利用者が不安にならないように申し送りをしっかりと行った。</p>		<p>離職を必要最小限度に抑えるためにも、働きやすくやりがいのある職場作りを検討してほしい。</p>


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、県グループホーム連絡協議会主催の研修に、全職員が順番に参加できるように配慮している。内部研修は、月1回研修報告を中心に実施している。		研修の年間計画を立て、職員の経験年数に応じ、段階的に研修を受講出来るようにしてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム(泉なごみの家)と意見交換や情報交換、勉強会を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	買い物、調理などを一緒に行うことにより、利用者から教わることもある。会話の中から楽しみ、希望、不安など聞いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がその人らしい暮らしを続けられるように、買い物、調理、散歩の時や日々の会話の中で思いや希望を把握しており、職員は毎日のミーティングの中で話し合い共有している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の要望を聞き、職員の意見を出し合い、介護計画を作成している。毎日昼休みに観察記録を作成し、会議において職員間で話し合い、より良い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月の介護計画の見直しの他に利用者の状態変化が生じた場合に、利用者、家族の意向を確認した上で職員間で話し合い、介護の見直しをしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望するかかりつけ医と事業所の関係を築き、受診時に家族が付き添えない場合は職員が利用者に同行し、受診できるよう支援している。また、協力医による月2回の訪問診療を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、家族会で本人、家族に説明を行っている。本人、家族の要望があれば重度化した場合や終末期でも継続利用できる方向で、医者と職員間で話し合いを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを傷つけないよう利用者への声掛けや接し方などミーティングで常に話し合いをしている。記録等の取り扱いにも注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況を把握しながら、就寝や起床、食事、入浴などを一律にしないように配慮をしている。買い物、散歩なども希望があれば出かけられるよう支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は業者が作り、デイサービスと同じメニューの食事を食べているが、朝食と夕食は利用者と職員と一緒に買い物、調理、盛り付け、片付けをしている。職員も食事を利用者と一緒に摂っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により午後に入浴をしている。日曜日は面会が多いので、入浴する利用者はいないが、要望があればいつでも入れるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者それぞれが洗濯、掃除、調理をしたり、散歩や歌を歌ったりしながら過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物に出かけたり、近くの公園に行っておやつを食べてきたり、温泉に行ってお風呂を楽しんで来ることがある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングから玄関が死角になっておりセンサーを設置しているが、日中は鍵をかけず見守りをして利用者の状況を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導のもとで、消防訓練、避難訓練を地域の方々と共に施設の敷地内で実施している。年2回夜間を想定した訓練を利用者も参加して実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業者に委託しており、栄養のバランスは取れている。食事の量が少ない時には補食で対応している。水分は緑茶、ほうじ茶、ジュースなど好みのものが飲めるように準備してある。食事量と水分量はチェック表に記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の居間にはコタツがあり、仲間同士でくつろげる部屋になっている。食堂は食事の準備をする人と話しをしたり、テレビを見て過ごせるようになっている。トイレ、浴室、玄関も明るく広い。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家具や小物を置いたり、その人の好みに合わせた居室になっている。仏壇のある居室もある。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム トモ・ハウス

記入担当者名 柳 内 英 俊

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。